



## 悲惨な戦争を後世に伝える

一般社団法人日本遺族会から表彰を受けた御前崎市遺族会長の増田幹夫さん（新谷区）が9月28日、柳澤市長に受賞を報告しました。増田さんは、市遺族会長や戦没者遺族相談員などを長年にわたって務め、戦没軍人の慰霊や遺族の福祉などの活動に尽力してきました。増田さんは「悲惨な結果を生む戦争はしてはいけな」と後世に伝えていきたい」と話しました。

◀戦争の悲惨さを訴える増田さん



## いもじいさんをしのび法要

御前崎にサツマイモ栽培を広めた江戸中期の先人で、「いもじいさん」の愛称で親しまれる故大澤権右衛門の遺徳をしのぶ祥月忌法要が10月6日、2年ぶりに海福寺で営われました。

甘藷翁祥月忌の実行委員長でもある柳澤市長は、「農業発展に尽くした翁の功績は非常に大きい。今後も市の農業振興に努めていきたい」と話しました。

◀市の誇りでもある「いもじいさん」の遺徳をしのぶ参列者



## 3年ぶりに屋台の引き回し

秋の例祭に合わせ、屋台の引き回しが10月8日と9日、池新田地区と高松地区で実施されました。秋の収穫への感謝や五穀豊穡などの願いを込めるもの。

地域ごとに受け継がれている伝統的な祭り囃子や掛け声に加え、地区自慢のきらびやかな屋台がまちをにぎわせ、住民は3年ぶりの開催に盛り上がりを見せました。

◀お囃子や掛け声に合わせて提灯を振りながら町内を練り歩く住民



## スポーツを通じて魅力発信

市は、3大会連続でオリンピックに出場している飯塚翔太選手を御前崎市スポーツ親善大使に任命するため、10月16日に任命式を執り行いました。

飯塚選手を講師に同日開催されたランニング教室には、小中高生約170人が参加。参加者は「自分も早く走れるようになって五輪に出場したい」と目を輝かせました。

◀「市の魅力を伝えていきたい」と意欲を示す飯塚選手



## 給食で夢咲牛ハヤシライス

市内幼保こども園と小中学校の給食で9月29日、「ギューニクの日」にちなみ「遠州夢咲牛ハヤシライス」がふるまわれました。子どもたちの地物食材への関心を高めることが目的。

河原崎絢斗さん（下朝比奈）は「御前崎市に夢咲牛があることを初めて知った。やわらかくておいしい」と顔をほころばせました。

◀口いっぱい夢咲牛ハヤシライスを頬張る児童



## 奉納相撲が4年ぶりに開催

秋の例祭に合わせて開かれ、約200年の歴史があるとされる奉納相撲が10月8日、4年ぶりに高松神社で開かれました。

氏子である20代～30代の青年20人が出場。取り直しの一番や豪快な投げ技が飛び出す場面もあり、土俵周りで見守った人々は大相撲さながらの真剣勝負に大きな声援と拍手を送りました。

◀「のこった」の掛け声で対戦相手とぶつかり合う参加者



## 女性の活躍を後押ししたい

社会で活躍する女性を発掘するコンテスト「ビューティー・ジャパン2022」の日本大会への出場権を獲得した沖知美さん（大山）が10月11日、柳澤市長へ抱負を語りました。

沖さんは「子どもや女性に、親になっても何歳になっても活躍できるということを伝えたい」と笑顔で話しました。

◀柳澤市長は「ぜひ日本一になってほしい」と激励しました



## 市民の健康増進などに協力

明治安田生命保険相互会社は10月20日、「地元の元気プロジェクト」の一環で市に406,500円を寄付しました。同社からの寄付は昨年度に引き続き2回目で、総額511,000円になります。寄付金は、市民の健康増進や子育て支援、介護・認知症対策などに活用されます。鈴木昭憲浜松支社市場統括部長は「住民の健康と元気な生活に貢献できればうれしい」と話しました。

◀柳澤市長に目録を手渡す鈴木浜松支社市場統括部長